

1. 意 見

別 報

天塩川水系河川整備計画でのサンルダムについて、いまだ大きな議論になっていますが、私は[]の[]に携わる者として、あらためてその必要性についての意見を述べたいと思います。

いまさら言うまでもなく、サンルダムには治水、利水、環境さらに発電と大変大きな役割が与えられています。

私はそれらの役割の中でも、特に利水及び環境に大きな期待を寄せています。

利水についてはすでに名寄市水道事業として新たな水利権をサンルダムに求める事としており、この新たな水利を活用して慢性的な水量不足や水質の悪化などの問題を抱える水道未普及地域の解消や、簡易水道さらに専用水道の統合事業を進めていく計画となっています。

また、環境については平成9年の河川法改正に伴い、新たに「河川環境の整備及び保全」が位置付けられたと承知しています。

私は今まさに、水道の水源としての名寄川には水質の改善を目指した河川環境の整備が必要であると考えています。

名寄川は急流河川として知られており、雪解けや大雨により一気に増水します。そしてまた、極端な濁水が繰り返されるなど、安定した水量と水質を確保することが難しい河川と考えます。

これまで、増水のたびに泥濁り、濁水では臭気の発生や色度の上昇など、いずれの場合でも水質の悪化は避けられませんでした。

特に濁水時期には水量の低下に伴って自然の希釈効果も薄れ、その結果、大腸菌群が名寄川の環境基準を超過するなど、様々な影響が確認されています。

こうした状況を改善する手だてとして、今、ダムの役割が見直されています。河川水質の改善や魚類及び動植物の生息・育成に必要な、川の水量の安定的な維持をダムが担うというものです。

川には動植物の保護や川水の清潔を保つために維持すべき水量、いわゆる維持水量という考え方があります。

サンルダムはその貯水能力を生かし、維持水量の確保を目指すための放水調整能力を持つダムと伺っていますので、その効果には大きな期待があります。

いずれにしましても、名寄川は中規模な河川でありながら、水道用水、そして灌漑用水、さらには工業用水と、ピーク時では1日、35万トンもの水利が必要とされています。

特に、水道用水としては下川町及び名寄市で2万7千人にも及ぶ人々の生活を支えており、安全・安心、そして将来にわたる安定給水のため、サンルダムは大きな力を発揮するものと考えます。